

二九 國語に入つた西班牙語

日本と西班牙との交通の始めて行はれたのは、天正十二年(西紀一五八四)マニラより
媽港マカオに向つて航行中の西班牙船が航路を失して泉州に漂着し、それが更に平戸
に廻航したのに始まるのであらう。其の後秀吉の禁教令により一時日西間の關
係が杜絶したが、尙ほ西班牙人の我が國に來航するものが絶えなかつた。降つて
正保四年西班牙軍艦二隻長崎に來り、通商を復舊せんことを請うたけれども、幕
府は之を許さず、鎖國令を示して退去せしめた。これより後兩國間の交通は殆ん
ど斷絶するに至つた。

西班牙語にして國語中に入つたもの少くないが、其の重なるものは

(國語)

(西班牙語)

エンペラドール (皇帝)

emperador

ゴベルナドール (支配者)

gobernador

コンヘシヨール (懺悔)

confesion

等の語である。書籍としては西紀一六一〇年マニラに於て出版せられた日西語對譯辭書がある。